



ASAHI RUBBER INC.®

環境・社会活動報告書2015

Environmental & Social Activities Report



株式会社朝日ラバー

〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2

<http://www.asahi-rubber.co.jp/>

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

VEGETABLE OIL INK

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

発行：2015.07.27



会社概要

商号	株式会社朝日ラバー (ASAHI RUBBER INC.)
所在地	埼玉県さいたま市大宮区土手町 2 丁目 7 番 2
設立	1976 年 6 月 (創業 : 1970 年 5 月)
資本金	5 億 1,687 万円 (2015 年 3 月 31 日現在)
証券コード	東京証券取引所 JASDAQ 市場 証券コード 5162
従業員数	261 名 (2015 年 3 月 31 日現在)
主な事業内容	工業用ゴム製品の製造・販売
事業所	●本社 〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2 TEL 048-650-6051 FAX 048-650-5201 ●大阪営業所 〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町3丁目1番29号 本町武田ビル4階 TEL 06-6253-2521 FAX 06-6253-2522 ●福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 TEL 0248-53-3491 FAX 0248-53-3493 ●第二福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字山崎山1番地3 TEL 0248-54-1618 FAX 0248-54-1619 ●白河工場 〒961-0004 福島県白河市萱根月ノ入1番地21 TEL 0248-21-1401 FAX 0248-21-1404
関係会社	●ARI INTERNATIONAL CORPORATION 2015 S.Arlington Heights Road, Suite 109 Arlington Heights, IL 60005, USA ●株式会社朝日FR研究所 〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2 TEL 048-650-6051 FAX 048-650-5201 (福島研究室) 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 TEL 0248-53-3869 FAX 0248-53-4896 (白河研究室) 〒961-0004 福島県白河市萱根月ノ入1番地21 TEL 0248-21-1403 FAX 0248-21-1407 ●朝日橡膠 (香港) 有限公司 Unit 3, 27/F, 69 Jervois Street, Sheung Wan, HONG KONG ●東莞朝日精密橡膠制品有限公司 中華人民共和國廣東省東莞市橫瀝鎮西城1期B1区第2棟 ●朝日科技 (上海) 有限公司 〒200052 中華人民共和國上海市長寧区延安西路1088号 長峰中心516室

企業行動指針

基本的な考え方

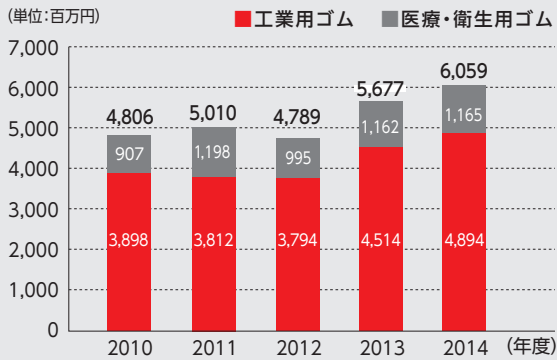
当社と当社グループ会社は、企業活動を行っていく上で遵守すべき行動指針を定めています。役員は誠実性と倫理観によって法令遵守を率先垂範し、社員への周知徹底とグループ内体制の実効あるコーポレートガバナンスを推進していきます。また、企業行動指針に反する事象が発生した場合は、自らの責任において問題解決に当たるとともに、原因究明と適切な措置・改善を図り、再発を防止し、健全で活力ある企業経営を目指します。

社員は自己研鑽に励み、企業目標と自己実現のために、努力していきます。

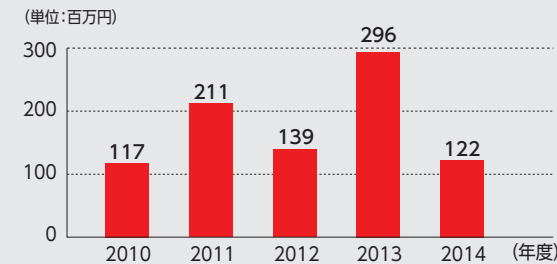
- 1 社員の人格と個性を尊重します
- 2 特徴ある企業を目指します
- 3 豊かな人間関係を築きます
- 4 会社の発展と生活の向上を目指します
- 5 企業活動を通じて社会への貢献をします
- 6 コンプライアンスを推進します
- 7 ストークホルダーを尊重します
- 8 環境への配慮、安全、安心を確保します

財務情報

■売上高推移 (連結)



■経常利益推移 (連結)



目次

- 01 会社概要
- 02 企業行動指針・財務情報

03 トップコミットメント

05 事業概要

07 環境への取り組み

環境理念・方針／

事業活動における目標と実績	07
環境パフォーマンスデータ／活動状況	08

11 社会への取り組み

お客様視点のものづくりの追求	11
働きやすい職場づくり	12
社会とのコミュニケーション	14

編集にあたって

本報告書では、朝日ラバーの環境と社会への取り組みを中心に紹介しています。

環境問題をはじめとして、私たちが果たすべき社会的責任は多岐にわたりますが、今後も活動と情報開示の充実化を目指します。

●対象組織

株式会社朝日ラバー
関係会社である株式会社朝日 FR 研究所
※環境パフォーマンスデータの集計範囲は以下の通りです。
福島工場・第二福島工場・白河工場

●対象期間

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
(一部対象期間外の内容を含みます)

●発行年月および次回発行予定

2015 年 7 月 (次回発行は 2016 年 7 月予定)

●参照したガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン 2012 年版」
GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン 第 4 版」

●発行責任部署およびお問い合わせ先

株式会社朝日ラバー 管理本部企画グループ
〒330-0801
埼玉県さいたま市大宮区土手町 2 丁目 7 番 2
TEL : 048-650-6056 FAX : 048-650-5206
<http://www.asahi-rubber.co.jp>



社会に価値を提供する 日々新たな朝日ラバーを目指します

株式会社朝日ラバー
代表取締役社長

渡邊陽一郎

事業を取り巻く環境とV-1計画

2015年3月に代表取締役社長に就任いたしました。新社長としての私の使命は、創業精神を守り、人を育て、必ず目標を達成させる行動を通して、より多くの方々に価値をお届けできる企業体に成長させることだと考えています。

2014年度の我が国の経済は緩やかな回復をみせており、輸出・生産とも増加傾向にあるなか、当社はスイッチ用ゴム製品や防水カバー用ゴム製品などの自動車関連製品と機能製品のRFIDタグ用ゴム製品の受注が海外向けを中心に増加しました。

2014年度は朝日ラバー全体が目指す姿、「AR-2020 VISION」を定め、その第1期「V-1計画」の3年のうちの1年目に相当する重要な年となりました。計画初年度の取り組みとして、事業領域を自動車事業、医療事業、ライフサイエンス事業の3つに改めました。特に新設したライフサイエンス事業では、柱となるマイクロ流体デバイスが量産ステージの一手前という所まで来ており、これから応用範囲を広げていくことで、お客様に使っていただける範囲も拡大していけると考えています。

技術革新による社会への貢献

「朝日ラバーに頼めば安心して任せられる」という信頼感、そして「朝日ラバーに頼めば何とかしてくれる」という期待感。この2つにお応えし続けていくことが、社会の期待に応えることだと考えます。例えばライフサイエンス事業のマイクロ流体デバイスは、血液や試薬などを流しこむことにより、病気の診断や毒物・病原体などを迅速に検出できます。従来では半日から数日かかっていた病気の診断を、10分から1時間で可能にします。低コストで、いち早く治療を開始することができるため、医療の現場で安心・安全へ貢献することができます。これからも当社ならではの技術革新を通して社会に必要とされる製品の創造を目指します。



事業活動での環境負荷低減

当社の主力製品であるゴムはライフサイクルにおいて多くの化学物質とかがわっており、事業活動での環境負荷低減に取り組むことは当社の社会的責任だととらえています。例えば、洗浄プロセスで使用する化学物質ですが、外部に影響のないように扱うのはもちろん、代替りの洗浄方法で同レベルの技術が構築できないか今後検討していく必要があると考えています。

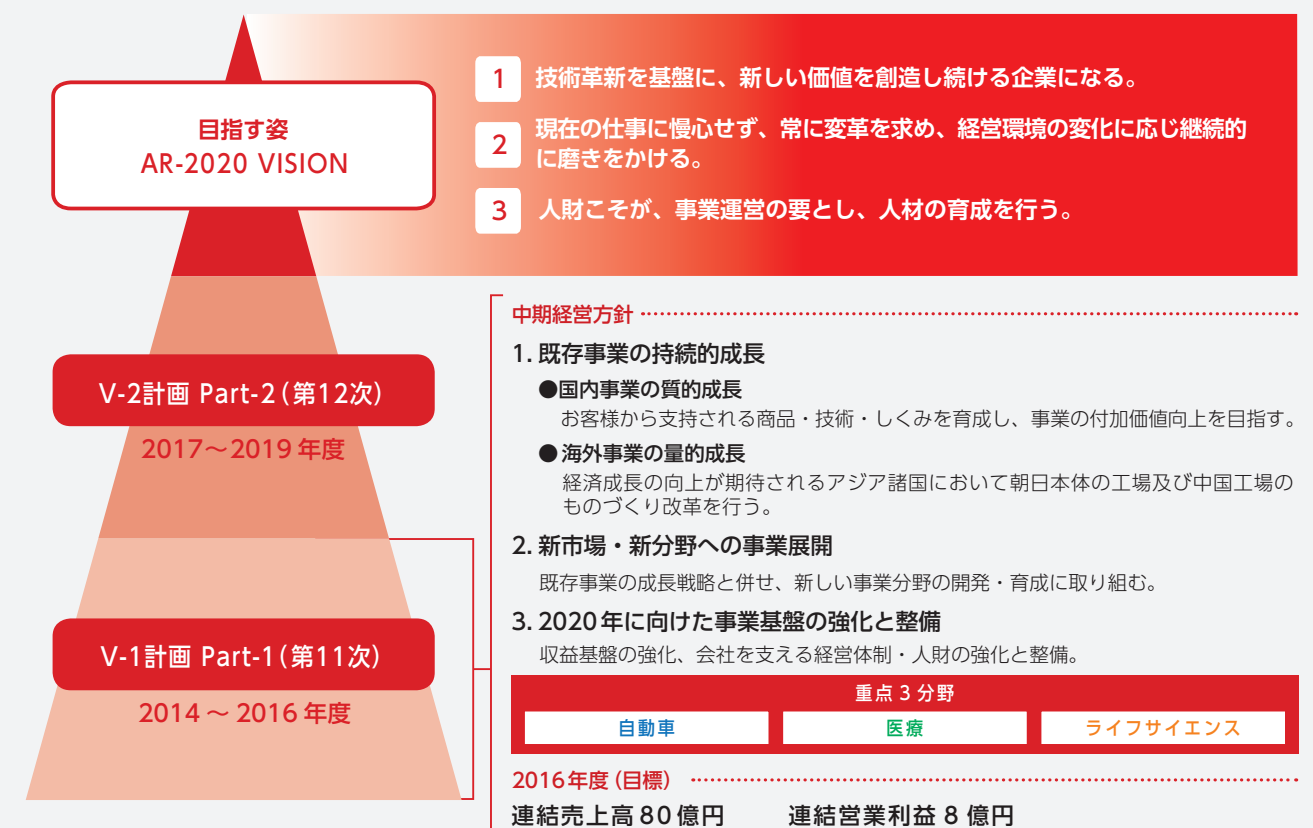
環境関連の法令を遵守することにとどまらず、環境に配慮できる原料を扱う意識や技術の高度化、そして資源の有効利用と生産プロセスの効率化を通して環境負荷低減に貢献していきたいと思っています。

自らを磨き、スピードを上げて体質を強化

2014年に導入した工場長制により、技術と生産の機能を一体的に運用できる体制となりました。今後は、体質強化を図り「スピードを上げる」ことが重要になっていきます。「スピードを上げる」とは、無駄をなくし、業務や組織をスリムにすることであり、お客様の要請に迅速に回答できるようになるということです。それには、社会やお客様のニーズを先取りしなければなりません。

先を読み、社会に新たな価値を提供し続けるために必要なのは、人財です。今後2年かけて「個性を伸ばせる組織」を目指して人事改革を推進します。既存の人事評価や体系を見直し、常に行動して自らを磨き、「日々新たな」製品や価値を「楽しんで」創造していける環境を整えていきます。絶えず新鮮な風が吹く職場から、独自製品・開発製品を社会にお届けできるよう全社一丸となって真摯に努力し続けていきます。

第11次中期経営計画(2014～2016年度)



朝日ラバーの強み

ソフトマテリアルには、伸縮性・弾性・柔軟性などの性質に加えて、導電性・耐熱性・耐紫外線性・透明性・リシール性などさまざまな機能を持たせることができます。

私たち朝日ラバーは、「色と光のコントロール技術」「表面改質およびマイクロ加工技術」「素材変性技術」の3つのコア技術で素材の力を引き出し、人々の健康に役立つ商品、新たなグリーン市場を創出する商品に不可欠なパーツをつくり、お客様の期待にクオリティと経済性で応えます。



ISO14001認証取得

2000年3月……本社、福島工場、第二福島工場、大阪営業所、(株)朝日FR研究所
2007年9月……白河工場

ISO9001認証取得

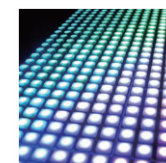
1998年10月……本社、福島工場、第二福島工場、大阪営業所
2007年11月……白河工場

重点事業領域



自動車

色と光のコントロール技術を応用した自動車内装、照明分野とコア技術を応用したスイッチ分野を拡大



製品

- ASA COLOR LED
- ASA COLOR LAMPCAP
- 接点ラバー、Oリング
- スイッチ用ラバー、防水カバー



医療

ナノ・分子レベルの素材変性技術で医療分野を支える製品を提供



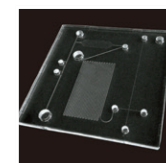
製品

- プレフィルドシリンジ用ガスケット
- 採血用・薬液混注用ゴム栓
- 点滴輸液バッグ用ゴム栓
- 真空採血管用ゴム栓



ライフサイエンス

表面処理とマイクロ加工技術で高性能製品や新たな分野を開拓



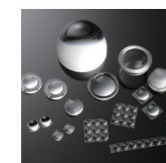
製品

- マイクロ流体デバイス
- 卓球ラケット用ラバー



その他

コア技術の深掘りと新しい製品・新しい分野に挑戦



製品

- ASA COLOR LENS
- ASA COLOR RESIST INK
- 蛍光体シート
- RFIDタグ用ゴム製品



環境理念・方針 / 事業活動における目標と実績

「地球にやさしいものづくり」のスローガンのもと、環境方針を具現化した環境目標を毎年度に定め、日々の事業活動のなかで取り組んでいます。



環境パフォーマンスデータ / 活動状況

事業活動から発生する環境負荷についての把握・分析を行い、これらの結果に基づいて取り組みの改善につとめています。



事業活動における資源・エネルギーの流れ



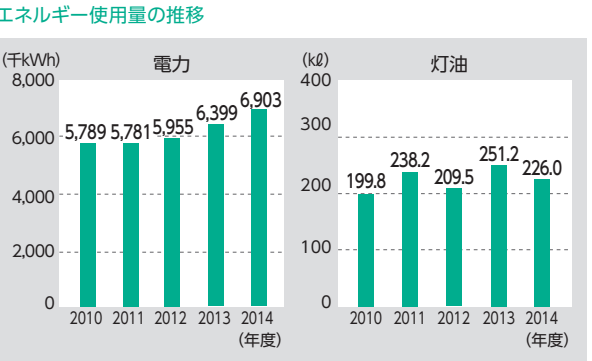
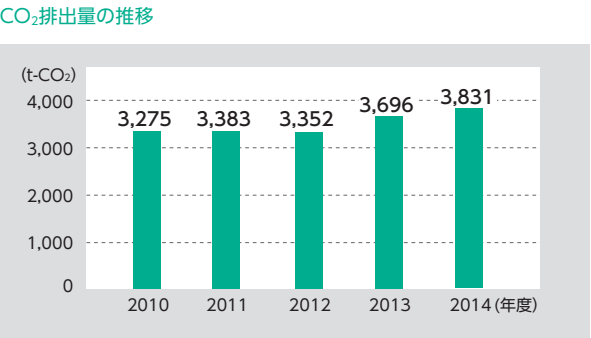
CO₂排出量の低減

2014年度、CO₂排出に占める電力起因のCO₂が84%、灯油起因のCO₂が16%となり、電力の比率が前年度比3%上昇しました。医療用製品の再生産ロス改善により、灯油使用量が前年度比10%減少したことなどによるものです。また、日常の省エネ活動に加え、老朽化エアコンの更新など、省エネ設備の導入を行いました。しかし、生産高の増加や新規事業用のクリーンルームの稼働と設備の試作運転による電力使用が加わり、電力と灯油を合わせた全体で前年度比3.7%の増加となりました。

省エネルギー

●電力使用量
2013年度同様、夏季の空調管理による電気使用量の抑制、タイマーによる設備の電源の管理、節電意識向上活動、品質不良発生防止活動、福島工場では老朽化した大型エアコンの更新などの電力消費削減策を実施しました。
また、福島工場では全体の生産減少、白河工場で複合製品の生産増加、クリーンルームの本格稼働による消費電力の増加などの稼働状況が変動しました。その結果、生産高が前年度比6.9%増加し、電力使用量も7.9%増加しました。

●灯油使用量
2014年度も継続して品質不良による再生産を減少させ、灯油使用量の削減に取り組みました。特に医療用製品の処理設備では、清掃箇所を見直し、再生産回数を大きく減少できました。この改善の効果により、使用量が前年度比10.0%減少しました。



事業活動における目標と実績

2014年度(第45期)			
方針		目標	実績
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を遵守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの遵守	工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽ほかの法定設備点検、各種届出などを行い、法令遵守に取り組みました。
	事業活動に適用される有害物質規制を遵守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	ゴムの添加剤として使用されるフタル酸エステル類(DEHP)が改正RoHS指令の検討対象物質になり、得意先から要求のあるPVCと合わせ代替配合の切り替え活動を継続しました。
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・LEDキャップ材料歩留まり5%削減	完成製品の歩留り向上活動の継続に加え、投入材料の削減活動により、前年度比6.2%減少しました。
	エネルギー削減	・CO ₂ 削減(電力、灯油)目標数値は工場ごとに設定し、活動する	日常の節電活動に加え、医療製品の再生産防止を進めましたが、受注増もあり、前年度比3.7%増加しました。

2015年度(第46期)			
方針		目標	
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を遵守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの遵守	
	事業活動に適用される有害物質規制を遵守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する。	
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算エネルギー使用量を前年度比1%削減する。	

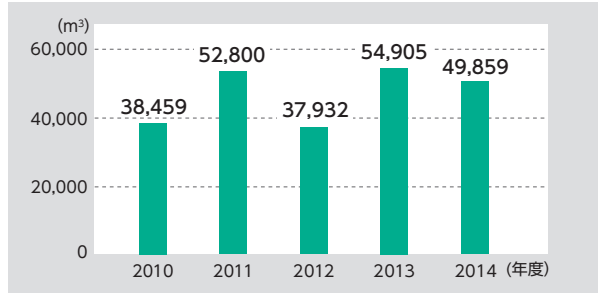
水使用量

水も灯油同様、医療用製品処理設備の清掃箇所見直しによる再生産回数の減少効果が大きく、水使用量の削減につながりました。また、週単位での水使用量の点検を継続するとともに、貯水槽の異常漏水を検知する減水センサーを取り付け、漏水の早期発見、処置ができるように改善を行いました。このようなことから、水の使用量は前年度比9.2%減少しました。



医療用の新製品用設備

水使用量の推移



化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類 (DEHP、BBP、DBP) が検討対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともにPRTR法で指定される移動量の届出を行っています。

廃棄物の削減

2014年度も継続して廃棄物で最多のゴム系廃棄物の削減を狙い、投入材料削減活動を継続しました。その結果、特に医療用製品でゴム系廃棄物が減少しました。

それに対し、生産量の増加に伴い原料の容器であるダンボールや紙類、ポリシート、木製パレットなどが増加しました。これらの結果、廃棄物全体では前年度比5.9%の増加となりました。

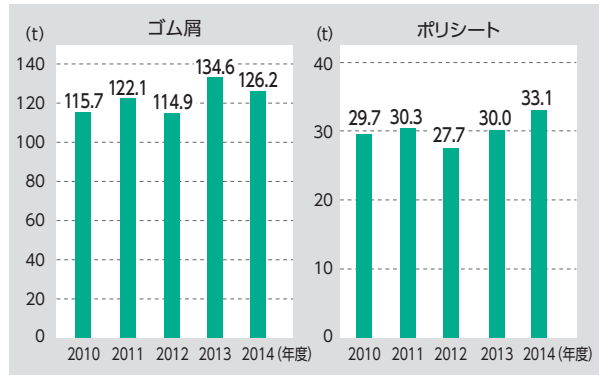
廃棄物総排出量と前年度比の推移

年度	廃棄物 (t)	前年度比 (%)
2010	272.4	103.5
2011	264.2	97.0
2012	252.5	95.6
2013	292.7	115.9
2014	310.0	105.9

廃棄物の種類

種類	排出量 (t)
ゴム屑	126.2
シリコンゴム	35.1
ポリシート、プラスチック	59.0
汚泥	19.1
廃紙類	23.2
可燃ごみ	20.2
木製パレット	10.6
その他	16.6
合計	310.0

排出量の推移



リサイクルの推進

第二福島工場の排水に含まれるゴム屑などの浮遊物を除去する過程で分離された脱水汚泥は、廃棄物全体の4%程度を占めています。

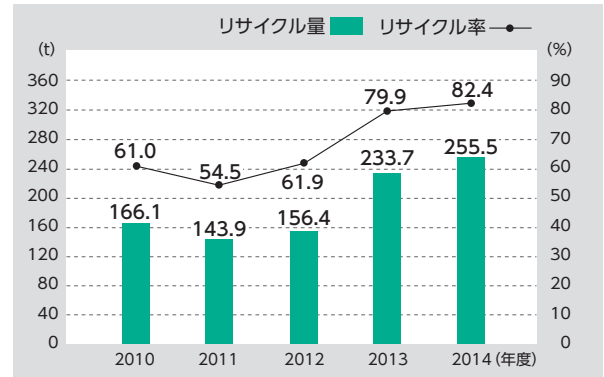
これまではリサイクルできず、埋立処理されていましたが、2014年度には、この脱水汚泥を道路の路盤材としてリサイクルするルートを確認することができました。

その結果、リサイクル量、リサイクル率が増加しました。リサイクル率は前年度に比べ2.5ポイント向上して82.4%となり、80%を超えることができました。



道路の路盤材用碎石にリサイクルされた脱水汚泥

リサイクル量およびリサイクル率の推移



トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR LAMPCAP中に含まれる不純物を取り除くため、トリクロロエチレンを使用してきました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壌ガス吸引浄化装置による土壌浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2014年度は、2012年度から評価を開始した土壌中の汚染物質を微生物に分解させて浄化する方法について、微生物が活性化するのに適当な土壌条件の調査を行いました。微生物が活発に活動するには土壌の水素イオン濃度や栄養分となる薬剤が火山性土壌に含まれる硝酸イオンや硫酸イオンの影響を受けないことが必要です。

菌が住みつき、増えやすくなるように炭素繊維の菌床を設置したり、栄養剤の入れ方などを検討しましたが、微生物を活性化させ、汚染物質を効果的に分解できる条件は見出せませんでした。2015年度も継続して微生物を活性化させる条件を調査していきます。



土壌浄化条件調査

VOICE

品質向上へ向けて生産現場から製品の技術・設計面の知識を強化

品質の高い製品をつくるには、お客様のニーズをふまえて技術を開発し、設計図に反映させる必要があります。一方で、実際に製品化する生産現場でも、設計の意図などに対する理解を深めることが重要です。

そこで、私たち技術開発の担当者が講師役となって、製品ごとのポイントを生産現場の担当者に解説する「技術塾」を立ち上げました。私は、全6回のうちの1回を担当し、自動車のオーディオなどのボタンに使われるゴム製品をテーマに、コア機能や特性、生産工程における重要点などを講義しました。

講義の準備を進めるうち、技術の原理・原則に立ち返ることで、さまざまな気づきを得ることができました。また、生産現場からも、より効率的に生産するためのアイデアが生まれつつあります。今後も、技術塾の活動などを通じて、ものづくり企業の総合力の底上げに貢献していきたいと考えています。



福島工場 技術グループ
伊東 宏樹

お客様視点のものづくりの追求

徹底して品質にこだわり、「品質の朝日ラバー」といっていただけるような製品づくりを目指します。



お客様の立場に立った品質を大切にしています

● 朝日ラバーの品質方針

朝日ラバーが注力する品質方針とは、「お客様目線の品質」を大切にすることです。得意先クレーム“ゼロ”や法令遵守に取り組むことは当然ながら、お客様のニーズを的確に把握した製品を開発し、資源と時間の無駄を徹底的に省いた生産活動に取り組んでいます。私たちは常にお客様の視点や立場に立った品質づくりを目指しています。

● 品質保証と管理システム

重要な取り組みとして、ISO9001やISO14001の改訂を機に2017年までに事業プロセスの見直しを行い、事業プロセスと最新の国際基準を統合・一本化させ、統合マネジメントシステムを確立させていきます。品質管理の主な取り組みは工程品質保証です。次工程に不良を流さないようにするため、品質実績を徹底解析し、原因を究明し、個々に対策を計画していきます。品質会議で、月に一度、横断的な課題や対策の進捗状況などのレビューも実施しています。また、不良発生の予防施策として、製品の重要機能・品質を特定し、設計審査の実施に取り組んでいます。生産、購買、営業の視点もインプットし、設計段階で活かしています。

品質は朝日ラバーの「土台」です。その土台を構成するのは人材に他なりません。問題の発見力と解決能力を磨くべく、さらなる管理技術と、ゴムの能力を最大限に発揮するための固有技術を身に付け、機械ではできない品質管理をお客様にご提供し続けていきます。

● 環境にやさしいものづくり

省エネ法の遵守を徹底し、生産性を高めることで、資源使用量を低減する努力を日々続けています。目標に対して誠実に取り組むことで、事業の成長と環境配慮のバランスを取っていききたいと思います。

2014年度は、第二福島工場で使用する灯油エネルギーと水の使用料削減を実現しました。ゴム製品の不純物処理工程で、洗浄の効率化を図れたことにより、再洗浄の必要をなくし、灯油エネルギー削減と水使用量の削減につなげることができました。これからも環境にやさしいものづくりを目指していきます。

常務取締役
工場部門・品質・購買・環境担当
亀本 順志



働きやすい職場づくり

ともに成長していくために、すべての従業員がそれぞれの個性を生かし、力を発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。



人材マネジメント

朝日ラバーが目指す人材像

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切にし、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラルの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

ワークライフバランスの推進

○ 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めていくためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。



主な両立支援制度一覧

出産・育児	
育児休業	最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能
子の看護休暇	子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位での取得も可能
介護	
介護休業	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算93日間の介護休業の取得が可能
介護休暇	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日、2人以上の場合は1年につき10日を限度として介護休暇の取得が可能
柔軟な労働時間	
所定時間外労働免除・制限	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能
短時間勤務	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能
ノー残業デー	第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ）
半日単位有給休暇付与	1年につき5日分（半日単位で10回分）の半日単位の有給休暇が取得可能

両立支援制度実績(国内事業所および関係会社)

	2012年度	2013年度	2014年度
育児休業取得者数	8	12	11
育児休業取得者復帰率	100%	100%	100%
育児短時間勤務利用者数	9	10	13
子の看護休暇取得者数・総日数	32(116.5日)	30(111.5日)	27(158日)
介護関連諸制度利用者数・総日数	2(4日)	1(5日)	2(3日)

有給休暇取得者数

	2012年度	2013年度	2014年度
有給休暇 平均取得日数(日)	10.4	9.0	10.0
半日有休 取得者数	235	165	230

新規採用入社3年未満退職率

	2012年度	2013年度	2014年度
新規採用入社3年未満退職率	0.0%	0.0%	0.0%
採用者数	5	5	5
退職者数	0	0	0

職場環境の安全

工場の現場では、休日や夜間作業になると担当者以外の人が近くにいないため、異常に気付かないことが考えられます。2014年度はこのような場面を想定し、担当者が身に付ける転倒検知装置を導入しました。担当者が倒れたまま一定時間が経過するとあらかじめ設定した部屋に異常信号を発信するというものです。これまで事故事例はありませんが、窒素ガスを使用する作業場に設置した酸素濃度低下警報やAEDと同様に、もしもの時の安全のために導入を決めました。事故の発生予防のほか、異常発生時、速やかに対応できる備えについても検討を進めています。



万が一のために導入した転倒検知装置

工場のなかには事故に発展しうるさまざまな危険が存在します。当社では、毎月工場ごとに安全衛生委員会を開催し、安全の基本となる2S(整理・整頓)を中心とした工場内パトロールを継続しています。

また当社では、従業員の声を集め、働く環境を整備する仕組みとして女性の視点による職場環境の課題を話し合う場を設けています。

メンタルヘルスケア

職場に存在するさまざまなストレスへの対処として、メンタルヘルスケアの活動に力を入れています。外部から講師を招いて管理職向けの勉強会を開催し、日常の仕事の管理面で配慮すべき点や相談できる風土づくりを通じて、生き生きと働くことのできる職場づくりを目指しています。また、規程を整備して会社として不公平感のない対応ができるよう制度づくりを進めているほか、「なんでも相談窓口」を設置して上司や同僚には話しにくいことも相談できる体制を整えています。

従業員の状況

従業員数(2015年3月31日現在)

(単位: 名)

	正社員	準社員	嘱託	パート	合計
本社	33 (5)	—	3 (0)	—	36 (5)
大阪営業所	5 (1)	—	—	—	5 (1)
福島工場	65 (18)	8 (4)	—	1 (1)	74 (23)
第二福島工場	58 (19)	9 (4)	—	—	67 (23)
白河工場	100 (27)	9 (4)	—	—	109 (31)
(株)朝日ラバー合計	261 (70)	26 (12)	3 (0)	1 (1)	291 (83)
朝日FR研究所	8 (2)	—	—	—	8 (2)
ARI INTERNATIONAL Corp.	2 (0)	—	—	—	2 (0)
東莞朝日精密橡膠制品有限公司	181 (104)	—	—	—	181 (104)
朝日科技(上海)有限公司	2 (1)	—	—	—	2 (1)
総合計	454 (177)	26 (12)	3 (0)	1 (1)	484 (190)

※()内は女性人数

社会とのコミュニケーション

朝日ラバーは社会とのコミュニケーションを大切にしています。

工場拠点におけるさまざまな活動を継続して行い、地域社会の一員としての役割を果たしていきたいと考えています。



納涼祭を開催

2014年8月、事業所ごとに納涼祭を開催しました。各職場から選抜された福利厚生委員を中心に工場ごとに暑い季節を乗り切るメニューを企画



し、楽しいひと時を過ごしました。従業員の家族も自由に参加し、普段、見ることもないお父さん、お母さんの職場を見る機会となりました。

小田川小学校の皆様工場見学

2014年11月、白河工場が立地している地区の小田川小学校から5年生14名が社会科授業の一環として白河工場を見学しました。ゴム



を身近に感じてもらうためのゴム細工コーナーでは、着色したシリコーンゴムを使って一人ひとりが思い思いの作品をつくり、見学会を楽しんでいました。

インターンシップ生が白河工場で研修を実施

2014年6月に福島県立白河実業高校の生徒6名、8月には日本大学工学部から学部生、大学院生7名をインターン



シップ生として受け入れられました。当社では毎年企業体験を通じた就業意識の向上を目的としてインターンシップ生を受け入れています。

朝日ラバー杯卓球大会を開催

2014年7月、第20回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催しました。今大会には福島県の県南地域から21校240名の選手が参加し、熱戦



を繰り広げました。今回は20回の記念大会となり、全日本選手権で優勝経験のある先生をお招きし、卓球教室を開催しました。

JR東北本線泉崎駅の清掃活動

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に4～5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2015年で20年目になります。



しらかわ地域企業展示交流会

2014年7月、白河市の産業団体が企画する「しらかわ地域企業展示交流会」に出展しました。地域のコミュニケーションの場として、近隣企業や各種団体、高校、大学から出展や来場があり、当社のPRをさせていただきました。特に多くの高校生が当社ブースを訪れ、熱心に製品説明を聞いて行きました。



VOICE

■ 人格と個性を尊重する企業として、メンタルヘルス対策を推進しています

朝日ラバーグループでは、2014年にダイバーシティ・プロジェクトチームを発足させました。さまざまな個性を持った従業員が心身ともに健康で長く働ける職場づくりをするため、メンタルヘルスに注力しています。

その一環として研修を実施し、リーダークラスを中心に32名が参加しました。外部講師による職場のメンタルヘルス対策の重要性の講義を受けたほか、悩みを抱えた人の話をそのまま受け止めながら聞く傾聴のトレーニングを行いました。

また、工場ごとに女性が集まり、悩み事の相談や意見交換をする「なごみ」という会も定期的に開催しています。従業員がメンタルの問題を抱え込まないような取り組みを、これからも積極的に推進していきます。

株式会社朝日FR研究所
班長 衛生管理者
渡辺 明美